

第2回練馬区次世代育成支援推進協議会会議録

- 1 日 時 平成18年9月27日（金）午後6時30分から
- 2 場 所 練馬区役所本庁舎19階1902会議室
- 3 出席委員 広岡座長、大屋副座長、遠藤委員、川守田委員、長島委員、林委員
松崎委員、柳沢委員、渡部委員、上野委員、渡邊委員、佐伯委員
酒井委員、高須委員、高橋委員、田中委員、土田委員、浜野委員
山谷委員
(順不同)
児童青少年部長、子育て支援課長
(事務局) 計画調整担当課長、計画調整担当課職員
- 4 傍聴者 0人
- 5 議 題
(1) 次世代育成支援行動計画についての意見交換
(2) 計画事業について
※基本施策のうち
「3 子育て家庭を地域で支える仕組みづくり」
「5 児童館、地区区民館、厚生文化会館、学童クラブ事業等の
充実」について
(3) 今後のスケジュールについて
(4) その他
- 6 配付資料
資料1 練馬区次世代育成支援行動計画（本書）
資料2 練馬区次世代育成支援行動計画実施状況（平成17年度）
資料3 練馬区次世代育成支援行動計画の一部変更について
- 所管課 練馬区健康福祉事業本部児童青少年部計画調整担当課計画調整主査
電話 3993-1111 内線 8031
E-mail jidokeikaku01@city.nerima.tokyo.jp

会議の概要

座 長

それでは、第2回練馬区次世代育成支援推進協議会を開催します。本日はお忙しいなか、お集まりいただきありがとうございます。まず事務局から配付資料の確認をお願いします。

計画調整担当課長

本日、配付資料は次第だけです。前回の協議会から引き続きのつもりでございますので、前回の資料（練馬区次世代育成支援行動計画本書、練馬区次世代育成支援行動計画17年度実施状況、行動計画の一部変更）をお持ちでない方はこちらにご用意させていただいていますので、お手をお挙げください。

座 長

本日は議題が2つあります。

次世代育成支援行動計画についての意見交換と、計画事業についてで、それぞれ1時間ぐらいずつと考えています。

それでは、児童青少年部長からごあいさつをお願いします。

児童青少年部長

本日、2回目の会議ということでよろしくお願いします。

今日はこの次第に基づいてご論議いただきまして、次回以降、あわせてどういう方向で論議をしていくのか、その方向性も出していただければと思っております。

ご案内のとおり、来年に向けて、国が子育て支援対策の一環として、骨太の少子化対策を出してございます。認定子ども園、放課後子どもプランなど、国の動きがございましたので、そういうことを含めてご意見をいただければと思っております。よろしくお願いします。

座 長

議事に入りたいと思います。

お手元の次第の1「次世代育成支援行動計画についての意見交換」ということで、前回時間が押して、十分に発言を頂戴することが出来ませんでした。前回に引き続いて、一般的に、これからの子育て、子育てを社会的にバックアップしていくのにどういうことが必要かということに関して、ご自由にご発言を頂戴したいと思います。前回発言する機会がなかった委員を優先に、順番に指名させていただきます。特に子育てを経験された方、子育て真っ最中の方は一番の当事者なので胸の内を大

いにぶつけていただければと思います。

委員

前回、体調をくずして欠席してしまいました。私も今子育て真っ最中で、子どもを2人、保育室に預けて出席しております。

私は東京電力に勤めています。2人目の子どもを生んでから8か月目の9月から職場復帰いたしました。8時40分から3時20分までという時間での短時間勤務をしております。私の勤務する会社は、大手といわれているような会社なので制度というものは整ってきてはいます。それを利用される方も多くなってきています。男性の育児休職や短時間勤務というのも出来ますが、まだまだ男性が育児休職をとってまで休まないというのがあります。

今回2人目の時は、8週間の産後休暇の時に約1か月、夫に育児休職をとってもらいました。強制的ではないのですが、話しをしたら夫も休んでみようかなと。そういう意欲が湧いてきたのか、半年以上も前から上司に相談をして、引継ぎをして、休むといってもひと月なので、そんなに難しくはなかったようです。後は、やるかやらないかというところで、自分の意識としてそういうものはあると思います。やってみたらそんなに難しくはないことですが、なかなか一歩が出ないということを感じています。

上の子は豊玉南小学校に行っておりまして、今モデル校として学校の中で学童クラブとは別に過ごせる広場をやっていて、利用しています。年間500円の保育料だけで子どもたちが自由に出入りできるというものです。学童に行かなくても、私も今短時間勤務なので、子どもを迎えに行けるようないろいろな制度を使ってみてから、いろいろ問題点を見つけていきたいと思っています。よろしくお願いします。

座長

ぜひ子育て中のお母さんの声を働いている方も含めてしっかりと汲み取っていたいで行動計画の推進に関わっていただきたいと思います。

とりたてて私が思うのは、子育てをしていることが女性の人生を制約するようなことがあってはいけないと思います。男性も女性もお互いに、お父さんもお母さんも子育てに関わりあうということを、大きな方向性を見据えて施策に取り組んでいただくのが大切だと思います。

委員

私は娘がフルタイムで働いておりましたので、孫をずっと預かっておりました。孫の学校や保育園のPTAに出席して、あまりにお母さんたちがひどいのでびっくりしました。というのは、保育園の時に先生を囲んで話をしていた時に、子どもた

ちが中に入ってきました。先生が「お母さんのひざの上にどうぞ」と言われても、お母さんたちは「子どもは自由ですから」と言うのです。先生は若くて、私は年寄りですから、「そんなこと言わないでおひざの上に上げたほうがいいでしょ。みんなでお話ができないでしょう。」って注意したのですが、年をとっているものだからしかられるのです。ずっとそういうことが続いているうちに、お母さんと仲のいい友達になり、用事がある時には、そのお母さんは「おばあちゃん大変だから今日うちで遊ばせてあげるわよ」と言ってくれたりしてお互い預けあったりしていました。そういうお母さんたちはいいのですが、中にはひどいお母さんがいるのです。そういうお母さんばかり見てきましたから、私もどのようにしたらその子どもさんにとって良いかと思って注意をするとしかられます。そんな訳で今の世代についていけないという状態です。

座 長

お年寄り世代の辛口のお話でした。確かにそういう面はあると思います。

委 員

今のお話耳が痛いなと思っています。注意すべきところを注意しないお母さんがいると思いました。私の子どもは男の子なのですが、注意しすぎるくらいしてしまったので萎縮してしまった面もあって、そのへんが難しいと思いました。今中学生で、大分体も出来てきたので心配なくなりましたが、幼稚園からずっと喘息があつて、小学校の時には体が弱く休みがちでした。この間、病気の子どもを預かってくれる制度ができたということを知って、働くお母さんにとっては画期的なことだと思いました。私はパートで働いていたので、実家が近くにありましてし、預けながら出来たのですが、フルタイムの方たちは、子どもが風邪をひいたりした時に預かってくれる所があるとすごく助かると思います。そういうことが充実していくと良いと考えています。

先ほどの育児休暇も、男性がとる、会社自体でそういう風習がない、全然とる方がいないと自分がとりにくいという環境もあるようなので、お父さんが参加してくれる子育てということをこれから考えていかないといけないと思います。

座 長

今のご発言のお父さんの育児に関わることを進めなければならない。どのような取り組みが出来るのか大いに研究して取り組んでいただきたいと思います。

委 員

私は今までの人生いろいろなことをやってきました。子どもに関係すること、ポ

ーイスカウトも長くやっていたし、PTAは小学校、中学校、高校とやりました。

議会におりましたので、8期32年、この庁舎の中で生活していました。今までが受ける立場ばかりでした。こういう席でああしてくれ、こうしてくれと要望するのは今までの経験の中でないのです。いつも受ける立場、区民の方から要望を受けてそれを行政に願います、そんなことばかりやっていました。自分の考え方でこうだというのは非常に少なかったです。

そういう経験の中と申しますか、私が一番心配していることは、せっかく我々が何年もかかって作ってきた保育園、幼稚園など子どもに関する施設が、行政がこれから進めていこうとする民営化・委託化、そのことによってどうなっていくのだろうか。随分今まで陳情を受けて、無理な大変なことを行政に押し付けてやっていたのですが、今度は行政が打ち出した民営化や委託化ということについて、そのように変わっていった時に、さてどうなるのだろうか、全然見えてこないのです。後で時間があつた時に、その件について、みなさんに区の今の考え方についてお話いただければ、私たちも勉強になると思っています。よろしく願います。

座 長

今の民営化・委託化の件ですが、前回の時にも別の委員から話がありましたので、出来れば、またご説明をお願いできればと思います。

委 員

練馬区の小学校PTA連合協議会の会長をしております。PTAの代表ということで、私自身にも小学校3年生と6年生の子どもがおります。私の地元は土支田の豊溪小学校で、練馬区で2番目に古い学校で会長を3年間やらせていただいています。

私は古い感覚で子どもを育ててきたのかなと思っていますところ。家内が専業主婦なので、親の力で子どもを育てなければならないということで、福祉とかそういうものを考えずにやってきました。先ほど育児休業の話がありましたが、自営でやっていますので、すべてがごちゃ混ぜになっていて、PTA活動にしてもどこまで線を引いて、どこまでが商売なのか、自分が何をしているのか分からないような状態でやっています。その中で一番私が思うことは、今、子どもたちは夫婦や家庭の愛情だけでは育たないということです。いろいろな愛情で育てていかなければいけない。昔はおじいちゃんおばあちゃんが身近にいて、物を買ってくれたり、しかってくれたり、近所のおじさんおばさんが来てくれたり。私も古いですから、しかられたり、注意されたり、いろいろなことを言われながら育ってきました。

今PTAがやらなければいけないことは、子どもたちにいろいろな愛情を送り出してあげる。そのために育成とか、地域、自治町会のお祭りをやっていただいたり

いろいろな会合をしてもらおう。それに対してPTAが出て行って、子どもたちをよろしく願いますという意味での活動をしなければと思っています。PTA自体も、なり手がいない、私のように限られた人しかできない現状で、つらい状況、曲がり角にきている。

子どもというのは愛情で育つという、まずは両親の愛情、身内の方の愛情、地域の方の愛情、そういったいろいろな方の愛情を受けて子どもが成長していく状況を作るのがいいと思います。

委員

私は青少年育成地区委員会の代表として出ております。孫が小学校、保育園に行っておりますが、みなさんからそちらの話は大分出ていましたので、私は小学生の学校が終わってからの居場所と伺いますか、私が今関わっている学校応援団についてお話ししたいと思います。平成16年に2校の小学校から始まって、5年後には30校の予定と聞いております。近くでやっております小学校では、区の方からお金を出していただいておりますが、お金だけでは実施できません。地域の方とか、学校、PTA関係、商店会、いろいろな方の協力がないと出来ないわけですから、すべての小学校がやりたいと思っても、地域の協力がないと出来ないの、ぜひ地域の方の協力が欲しいと思います。

私は小学校も大事ですが、それ以上に中高生の居場所がぜひほしいと思います。よくいわれていますように、杉並の施設はとても良くて見学の方が多いと思います。建物は立派でも中の人がいなくていけないと思いますし、そういう場所が区でも必要だと思います。

座長

地域で子どもを成長させるしっかりとした仕組みを作るのが難しい時代ですね。

委員

民生児童委員ということで出席しておりますが、主任児童委員という立場で18歳までの子どもを主に扱っております。

地域の中に私たちの用語でグレーゾーンとあって、今すぐに児童相談所の方で保護しなければならないほど重症ではないが、このまま放っておいたらいつか何か絶対あるぞと疑われるようなお子さんを、各地域で1人の委員が4、5名ずつ抱えています。小学校や保育園、幼稚園から、「何か気になるお子さんがいるのですが」ということで連絡を受けて、今は子ども家庭支援センターと協力しながら、調査をしたり、家庭訪問をしたりしています。子ども家庭支援センターも非常に忙しくて、手がまわらない。相談したくても申し訳なくて相談できないという状況になってい

ます。行動計画の中にもありますが、福祉事務所地域ごとに子ども家庭支援センターを設けることを早急にさせていただきたい。両親がそろって、愛情をたっぷり受けて健やかに育っているお子さんはいいですが、そうでないお子さんは世の中にたくさんいます。そういう子どもたちをなんとか地域で支えていかなければいけないと思っています。

学童クラブのお手伝いをさせていただいて8年になります。学童クラブも試行錯誤しながら、いろいろなサービスを提供してきていますが、最近非常に気になることがあります。いくら手厚いサービスをして、受ける保護者の方が、かなりわがままになってきているのを感じます。例えばこの前の夏休みにあった出来事ですが、保育中に子どもがプールに行きます。プールに行くということは、朝、保護者が子どもの体温を測って、プールカードに印鑑を押して子どもに持たせます。それは保護者の責任だと私は思っています。それを学童クラブの先生が確認しないで、プールに出したので、学校でプールカードに印鑑が無かった、体温の記載が無かったということで子どもが帰されてきました。行く時は集団で行くので安全ですが、帰される子どもは1人で帰ってきます。それについて安全はどうなっているのかと。学童クラブの先生としてはそこまで責任はもてません。行く前に学童クラブでプールカードをチェックしてくれと言うのです。

保育の時間中に、今日は4時半からピアノのレッスンがあるとか、3時からお習字がありますとか、50人子どもがいれば帰宅時間がみんなばらばらなんです。それを連絡帳で知らせてくる親のお子さんについては、先生の方で対応できますが、連絡帳で知らせてこない親は、その学期の始めに「うちの子は何曜日と何曜日に3時半だって言ったじゃない」とその一言だけで、なぜ子どもに知らせてくれないのか文句を言います。50人の子どもを2人の先生が見ているので、声かけができないことも当然あります。それを鬼の首でも取ったように激しく言う保護者が最近非常に増えています。そういうことも、サービスを提供する方、利用する方、お互いのモラルが必要じゃないかと感じました。

座 長

今、福祉事務所地域ごとに子ども家庭支援センターを早急につくってほしいという話がありました。後ほど事務局の方で対応をお願いします。

委 員

私は練馬区社会福祉協議会という立場で出席していますが、本職は児童養護施設をやっています。特に虐待を受けた子どもをメインに預かっています。児童養護施設は、虐待を受けた子どもや、親御さんの事情で親子分離になった子どもをいずれは家庭に帰れるようにしていくわけですが、家庭復帰する時に、例えば親御さんが

「子どもが保育園に入れないと困る」とか、なかなかタイミングよく保育園に入れるような状況にないことがあります。学童ですと、学童クラブに入りたいと言っても空きがないということで、なかなか入れないのが現状です。そのために保育園や学童クラブに入れるまで施設で預かると、入所できるのを待ちながらだと分離の期間が非常に長くなってしまいます。待機があるのがあたりまえのようになっていますが、4月1日からじゃないとダメだとか、そうではなくて途中からでも優先的に入れるシステムがあるといいと思います。

子ども家庭支援センターの話が先ほど出ていましたが、やはり2、3ヶ所作るぐらいでは、なかなかさまざまな地域の相談にのれないのではないかと。重篤なケースは児童相談所に行くのですが、グレーゾーンといいますか軽微なものについては、地域の子ども家庭支援センターを中心とした相談になります。グレーゾーンかどうか分からない場合で、周りから見ればグレーかもしれないが、本人からしてみれば緊急なこともあり、市区町村ではなかなか対応が難しいのかなと思います。子ども家庭支援センターをつくるのはいいことですが、中味を重視していかないと、なかなか相談にのれないと思います。地域の相談にしっかりとのれることが大事であり、忙しいから受けられないという状況にあってはいけないと感じます。特に最近では、今預かってあげないと事故に繋がったり、子どもの命に関わるということもあるので、もっともっと相談しやすい体制をつくり、子ども家庭支援センターが役割を担い中心となってやっていってほしいと思います。

座 長

子ども家庭支援センターに関してのお話が出ましたので、前の意見も含めて少しご説明をお願いします。

委 員

東京都の児童相談センターで働いています。東京都には児童相談所が11ヶ所あります。私自身は児童畑一筋で、学生時代からいろいろな子どもたちを集めて塾を開いたりしていました。その延長で児童相談所で働いてみたいということで応募して入りましたが、そのころの児童相談所の児童福祉司は狭き門でなれない状態でした。現在東京都では児童福祉司が少なく、この前、新聞にも出ていましたが、1人あたり抱えている児童が全国でワースト4ぐらいで、人が足りません。今児童福祉司は虐待の問題と非行の問題の2つを大きな課題として取り組んでいます。相談が舞い込んで緊急会議を開いたりするのですが、職員自身も倒れそうな状況の中で現在やっています。東京都で17年度に28,000件の相談が寄せられております。その内一番多いのが電話での相談で約10,000件、3,200件が虐待の相談です。全体としての相談の数は少なくなっていますが、虐待の問題や養育の問題は増え続けて

います。適切な養育が出来ないのは、そうなる要因を分析すると、その人自身が育児不安を抱えていて、かなりの部分で経済的不安も抱えていることがわかっています。非行の問題で多いのは、ひとり親家庭の方がなかなか子どもの養育が十分でないということで率が非常に高くなってきています。

東京都だけではなくて、子どもの問題は児童問題という言われ方をしてきましたが、これからは子ども家庭総合センターという名称に変わっていきます。「児童」ではなく「子ども」と「家庭」なのです。今日、この席に参加させていただいてうれしいという思いと、肩の荷が重いという思いがあります。子どもと家庭とそれをさらに支えていくのが地域なので、これからは地域なのです。そういうところでは自立の支援がなくては行けない。

自立サポート事業ですが、非行の子どもたちの3割が虐待を受けている子どもたちであることが判明しています。適切な養育を受けていないということです。子どもたちが入る施設があるのですが、自立サポート事業は出てから支えるというもので、主任児童委員や地域、児童相談所でチームを作って支えていく事業です。これからの相談は、私たちだけでは対応できませんので、そういう人たちの地域のネットワークをいかに作っていかん支えていくか。児童相談センターも地域づくりの一端を担って、がんばってやっていくことが、子どもの幸せ、福祉につながるのではないかと考えています。

座 長

次世代育成の深刻な面をかいま見る思いがいたしました。

副 座 長

私には子どもが3人いますということで前回お話をさせていただきました。学童クラブに小学校3年生の娘が通っているのですが、親のモラルの低下というのは、委員も先ほどお話になっていましたが、非常に共感するところです。私も長男が18歳で下の娘が9歳でちょっと離れていますので、お母さんたちの中では年長者です。学童クラブでも、いろいろと指導してくださる先生方のしかり方が気に入らないということで、突然、施設長である児童館の館長さんの方にクレームを言うようなことがあって、私も保護者会に出てびっくりしました。自分たちで問題を解決するのではなくて、第三者に委ねるとというのが、問題解決能力が低下しているということです。親世代からいろいろ考え直していかないと行けないということ、私もPTAの一人として痛感しているところです。

少し距離をおいて、ねりま子育てネットワークや関びよびよにも関わらせていただいているので、子育て家庭の交流の促進とか、仕組みづくりということで、多少気になったところをお話させていただきます。ねりま子育てネットワークでは、

子育て支援をやっている団体のみなさんが、基本的に参加して、より良い仕組みを作りましょうということで、知恵を絞ったり活動したりしています。9月5日に子育て中の専業主婦に参加してくださいということで、交流会を開きましたが、実際にはお母さんたちの参加は少なかったのですが、少ない中で参加して下さった方は、子育ての孤立感とか負担感というところで、子育ての話をするとう涙を流して、自分の思いを話すだけで涙がでてしまう、涙を流すことで心が軽くなる、そういう機会がたくさんあるといいということで、ネットワーク事業の重要性を改めて支援者の一人として感じています。

関びよびよですが、9月23日にお父さんのためのワークショップをやりました。関びよびよは、いわゆる専業主婦、子育てに専念している母親たちがメインにお母さんと子どもと一緒にドロップイン形式という、立ち寄るタイプの広場事業ですが、お父さんを対象に6人の方にワークショップに出ていただきました。お父さんに「今子育てどうですか」と伺ってみたら、一生懸命子どものことを心配して、テレビではこうだったとか、どういうしかり方をしたらいいんだろうとかいう人もいる一方で、子どもが生まれても生活は全然変わりません、全然ストレス感じません、お小遣いも減っていないし、パチンコもたくさん行っていますという人もいました。「お母さんの様子はどうですか」とスタッフの方に聞くと、お母さんはお子さんの言葉が遅いとか、情緒不安定で困っていると言っているし、そういうふうに見受けられるとおっしゃるので、やはり、お父さんが一生懸命やってく下さる方もいらっしゃるけど、お父さんの中には子育てというものが実際にどういうものなのか認識していない方もまだまだいるということで、男女共に子育てにあたっていくということの意識啓発の必要性を非常に実感しました。

関びよびよは今年できたばかりで、とっても綺麗な施設ですが、利用者が多すぎて芋を洗うような状態で、これは保育の質の低下とか、箱は立派だけれど内容がねとか、行っても入れないよねということになると残念だと思います。お母さんたちの様子を何度か行って見ていると、1日中いるお母さんがいます。先ほど放課後の子どもの居場所づくりというお話が出ていましたが、まさに子どもよりも母親の居場所なのかなというところで、そういう意味では一つ事業の目的は達成されていると思います。母親の自学自習とか、お互いの子どもの様子を見て自分でこうだなと考えて子どもに対応していくとか、いいところを盗むとか、そのような効果を期待していますが、学習の能力が低下していることと、毎日来ているのになかなかお話をしないお母さんもいます。ネットワーク力がお母さん自身にも無いのかなということで、いらしてねというだけでなく、何か仕掛けをしないとイケないのかなと感じています。

男女共同参画の視点からすると、安心して子どもを預けて働いて税金を納めるような、そういったシステムをつくっていくには、民間委託という路線だけでいいの

か、ターニングポイントなのではないかということをお願いしておきたいと思いません。

委員

先ほどのお話の中で、コミュニケーションやネットワーク能力の低下といわれていますが、私たちも保護者として、いろいろな子どもたちと接していて、自分の子どものように他の子どものことも知っているか、わかるかなということがあります。同じ保育園に通っていたりとか、毎回顔を見ているのだけれど、顔を知っているというだけで、その子が何を好きか知らないことがよくあると思います。私はお母さんたちと話すのが苦手で、子どもたちと遊んでしまいます。今も上の子の学校にお迎えに行った時など、「〇〇ちゃんのママ」って遠くの方から子どもがみんな寄ってきて私の顔を覚えてくれています。そうすると、子どもたちの様子が結構わかってきます。大人同士の会話も大事なかもしれませんが、自分の子どものように、他の人の子どもも見てあげられるというのも大事ではないかと感じています。

座長

これまでの委員の発言、私はちょっと感じる場所があったので、ぜひ事務局で受け止めていただきたいと思います。コミュニケーションやネットワーク能力の低下という話ですが、先ほどの辛口の躰の話、虐待の問題などトータルで考えるとコミュニケーションやネットワーク能力の低下という言葉につけるのかなという気がします。そういう面で言うと、子育て中の親が自分たちで地域社会を作っていく力をどう引き出すのか。一つのテーマではあると思います。

子ども家庭支援センターの早急な設置について、事務局のほうで現状をお願いします。

子育て支援課長

子ども家庭支援センターの整備につきましては、5年間で4か所、福祉事務所地域ごとに整備するという考え方です。子育て支援の中核的な機関という位置づけをしております。子育ての総合的な相談、虐待への対応、ファミリーサポートセンターの活動拠点などで、昨年8月に練馬子ども家庭支援センターが1か所目としてスタートしております。2か所目の関子ども家庭支援センターも建物は出来ておりまして、来年4月にオープンします。先ほど副座長のお話にもあった、関びよびよ、子育ての広場だけは先行してスタートしております。そのあと光が丘と大泉に整備する予定で今準備を進めているところです。計画期間中にきっちり整備できると考えています。早く作っていただきたいというお話もございました。計画期間5年ということにあまりこだわらないで前倒しで出来るものはやっていきたいと思ってお

ります。

練馬子ども家庭支援センターは、虐待の事例や一般的な相談も含めて件数も多く、職員がフル回転しているというのはそのとおりです。虐待もそれぞれ1件ごとに、子ども家庭支援センターだけではなくて、通報していただいた関係機関、あるいは事例に関わる保健相談所とか福祉事務所、いろいろな相談機関に集まってもらってネットワーク会議を開催していますが、17年度は年間100回を超えています。そのように、非常に忙しい職場ではありますが、施設を計画どおりに整備することによって需要に応えられるようにしていきたいと思っています。中味が大切だというご指摘もいただきました。数だけの問題ではなくて、一つ一つそれぞれの地域を受け持って生の事例を扱うわけですので、ご意見、肝に銘じていきたいと思っています。

委員

5年後には必ずできると信じてそれまで一生懸命がんばっていききたいと思っています。

委員の方から中味が重要という話がでました。何か所ということではなく、中味だと思っています。できれば、もう一つ希望としては、職員の中に専門の知識を持った方を入れてほしいと思っています。

座長

では2番目の議題について事務局説明願います。

計画調整担当課長

お手元の次世代育成支援行動計画本書の36・37ページの施策の体系をごらんください。本日次第に書かせていただいた計画事業についてご意見を承りたいと思います。施策の体系に7つの基本目標がありまして、その内の1番目「子どもたちの育つ力と子育て家庭の育てる力を応援します」。施策を分類しますと、ここのところが一番子育てに直接的に関わる部分だと思います。2番目が「子どもと親の健康づくりを応援します」で保健所等に関わる部分、3番目の「子どもの健やかな成長を助けるため教育環境を整備します」は主に学校に関わる部分、4番目はまちづくり等に関わる部分と、施策の体系上こういった分類になっています。本日は、私ども児童青少年部に主に関わるということ、1番目の基本目標の中の8つの事業のうち、3つ目の「子育て家庭を地域で支える仕組みづくり」という基本施策について、先ほど座長からもコミュニケーションやネットワーク能力が低下してきているというようなご指摘をいただいたところでもあります。ここの現状と課題というところでは、本書48ページの真ん中あたりに「このような背景のもと、地域のコミュニティを強化し、子育て家庭を地域で支える仕組みづくりが求められています。これまでも、民生児童委員・主任児童委員、町会、青少年委員をはじめとする

さまざまな地域住民や、NPO等民間子育て支援団体が、地域の子どもと家庭を支える活動を実施してきました。今後は、それぞれの活動の充実を図るとともに、それぞれの活動が有効に機能するようネットワークを結び、連携しあいながら、子育て家庭を地域で支える仕組みを、より強固なものにする必要があります。」と書かれており、施策の方向ということで、体系上3つの計画事業が書かれています。本日はこのところを、具体的にどうやって連携を深めていくのかという議論をさせていただきたいと思い、次第に書かせていただきました。また、5つ目の「児童館、地区区民館、厚生文化会館、学童クラブ事業等の充実」では、今、学童クラブ等放課後の居場所づくりというお話が、何人かの委員の方から出ています。子どもたちの遊び場ということでは、厚生文化会館や地区区民館に、児童館機能が今現在あります。国のほうでは、これから放課後子どもプランというような形で、学校に所属する小学生全員を対象とした居場所づくりを、来年度から進めていきたいということで、新聞で大きくとりあげられています。そういう放課後子どもプランとの兼ね合いということになれば、児童館の機能がいらなくなるという極端な意見が出てきたりしますので、そのようなこともあわせて、ご意見をいただきながら、議論を深めさせていただければと考えています。

座 長

考えにくい問題なのかもしれませんが、ご意見のある委員からご自由に発言をお願いします。

私が1つ考えているのは、次世代育成支援の法律は企業も一肌脱ぎなさいという面が強いですよね。例えば商店会とかあるいは企業も地元で一役買うということを行政が働きかけるというのも大事なのではないかと思います。その他に何かお考えはありますか。

委 員

児童館や学校など、そうしたものを大いに有効に使うという趣旨には賛成なのですが、どうもみな屋内で、しかも大人が催すイベントに子どもがのってくるという、非常に受身な形にどんどんなっていくような気がします。これが続いていきますと、子どもたちはイベントがないと、退屈してブラブラし、意味のない遊びを繰り返しているということになりかねないと大変危惧しております。やはり子どもにとって一番大事なのは、自然の環境の中で、自分で工夫をしているいろいろなものを作ってみるなど、そういう体験がぜひとも必要です。そこで区内の空き地を何とか区の方で確保して、地主さんの了解を得て、そこにいわゆる自由遊びの広場をつくる。そして地域の方々が介入するのではなく、安全のために見守るような、そういう所を早急に作っていただきたい。どこの地域にもあるような、そういった施策をぜひお考

えいただきたいと思います。

座 長

他にいかがですか。

委 員

私は幼稚園に勤めていたことがあります。その頃、親から厳しいことを言われたこともありました。ちょっとしかると虐待していると言われたこともありますし、プールに入るのに、親から「熱が37度2分ありますが入れたほうがいいですか」と言われて、そういうことを決めるのは親だと思うのですが、決められない親も多かったです。

今1歳半の子どもがいますが、児童館などに行くとちょっとおかしな親が多くて、ぜひ親が学べる場を作ってほしいと思います。どんなに変かという、家に遊びに来て、何か壊してしまった時に、「ここに物があるから悪いのよ」というおこり方をしたり、謝ることを知らない親もいます。私は驕をきちんとしたいと思っているので、「何か食べる時は座って食べなさい」と子どもに言っていますが、平気で立って歩いて食べさせたりしています。そうすると、私の子が後ろから落としたものを拾って食べるなんてことがおこったりします。そのことについて本当は注意したいのですが、これから公立の小・中学校に入り、地域に根ざして生活する場合に、〇〇さんのお母さんはきびしいとか、ちょっと関係が悪くなるのが怖いと思い、なかなか言えない部分があります。

今日、厚生文化会館に遊びに行ったのですが、遊びの途中で避難訓練をしました。防災課の方がお話をして、避難訓練をしたのですが、こうやって親が集まるところで何かしてくださると、親も防災意識を持つきっかけになるのではと思います。また、児童館に行っても、先生が遊んでくださったり、体操をしてくださっている時に後ろの積み木に座っている親もいて、この人何しに来たんだろうと思うことがあります。結局、家に子どもと2人きりでいると辛いから、どこかに行けば気分転換になるという感覚の人も多いと思います。家にずっといる密室の保育に比べれば、外に出て発散されるのはいいと思いますが、自由と放任の意味を履き違えている方もいるので、親同士だと言えないし、教育の場をわざわざ設けると親は行かないと思いますので、そういった集まる場で、何か言ってくださるといいと思います。今、私は保育の勉強をしていますが、保育園は家庭養育の補完という言葉もありますし、児童の権利条約では、子どもの最善の利益という言葉もあります。けれども世の中の親は、そんなことは知ったこっちゃないと思っています。児童館や保育園で知り合った人ですと、保育園に入れると1歳半でオムツとれるんだってとか、離乳食もちゃんとしたものが食べられるんだってとか、私は3才児神話をどちらか

という信じているのですが、保育園は何でもやってくれるから入れてしまおうという感覚の人も中にはいます。親も便利ということで、だんだん努力をしなくなってきている部分が見受けられて、私も子どもが欲しいなって思う反面、周りの環境、時代の流れに乗っていけないなというところがあって、こういった世界に入るのはいやだなと思います。ですから先ほどお話のあったように、子どもの教育よりも親の教育を、何かきっかけになるようなことがあればいいなと思います。特に社会に出てしまうと学ぶ場がないので、学校教育からちょっとずつ、育てることの喜びを感じられるようにしていただきたいと思います。

座 長

難しい時代ですね。行政が取り組むとしたら、キャンペーンなのでしょうけど、「みんなでしかって大きく育てよう」。そんな手段をよく使いますね。

委 員

2つお話したいと思います。

1つは保護者の変わり方。嘆いていてもしょうがないし、そこに行って注意してもなかなか変わるものではないと思います。その時々、気づいた人たちが、その場面でネットワークを作りながら、取り組むしかないだろう。放っておけば、絶対変わらないだろうし、勉強会をやったとしてもなかなか集まらないだろう。小学校では教員も含めて保護者と関わりあう中で「あなたがいけないのよ」ということではなくて、子育てってどうすればいいのって小学校の中でも一緒に考える。それからPTAでも、学校の保護者会に行って、先生に言われて「はいそうですか」って帰ってくるのではなくて、伝達は伝達、課題は課題で考えて、いろいろな話をしながら一緒に育てていく。本校の職員の中にも、保護者会に行ってみて初めて分かったのは、他のお子さんを見ることによって、意外と自分の子どもが見えてないことがわかったと話していました。こちらにいらっしゃる幼稚園、保育園の先生方も一緒になって何をこうしなきゃいけないという形ではなくて、その場面場面で、子どもたちを見ながらみんなですべてやっていく。PTA活動も含めて、学ぶだけじゃなくて、一緒に何かをすることによって子どもを理解していくということが必要になってくるのではないかな。あわせて、おじいちゃん、おばあちゃんとの関わりをつくっていくこともとても大事なのではないかな。それぞれの自由というものがあって、生活の中で自由にしていくのは大事なことです。あわせてその中で学びとるものを失ってしまう。いろいろ難しい問題があると思いますが、そういうところから世代間の交流を通して伝わる部分もあわせて考えていく必要があるのではないかな。強制するものではないのですが、ひとつの流れ、方向として打ち出していく。その中で何が出来るか、特別な施設をつくるわけではなく、そんな関わりをそれぞれ地域

の団体とかPTA, NPOの方たちと交流しながら伝えていく。保育園や学童のお母さん誰でもいいと思います。そういうことを通して取り組んでいかれば良いと思います。

2つめは放課後の居場所づくりの問題で、委員からたいへんすばらしい発言がありました。今の子どもたちには、そういう力を発揮する場の必要があるだろうと思います。その時に今の問題とも絡むのですが、どうしても訴訟社会というか、誰の責任という話になってしまう。そこの部分を乗り越えていく。最初の段階では一般的にオープンにはできないとしても、何人かの方たちが相談をしてそこの範囲のなかでは、お互いに了解しようよという形で取り組んでいく。私が子どもの時は川に落ちて怪我をして帰ってくると、おまえのやり方がヘタだからと親にしかられた年代ですが、今は「痛いどうしたの、誰がこの川に柵をつけなかったの」という話になってしまう。大人社会の中でどう子育てをするのか、子どもにどんな力をつけていくのかということと一緒に論議をしていくことが大事だと思います。放課後の居場所づくりの問題で、学校応援団構想というのを練馬区では進めています。ようするに学校の中で、特別な施設に放り込むわけではなく、校庭で遊んだり、体育館で遊んでる子もいれば、図書室で勉強している子もいる。というような形で、従来の社会教育の中で、校庭開放で自由遊びをしていたのをもう少し、校庭開放の遊びだけじゃなくて、体育館にいたり、勉強したりということで広がっていくことが主な趣旨です。これはもともとが次世代育成の中で出てきたもので、厚生労働省から出てきた放課後居場所づくりの発想とはちょっと違います。流れとしては、そういう子どもたちを見ること、安全安心ボランティアとか全部ひっくるめて子どもたち全体をどう地域の中で見ていこうかということが、教育委員会の中で出されてきて、今結論的に言うと、どこかでリンクするんだろうなという気がしますが、流れとしてはもっと大きなもの、居場所づくりだけではないということです。ただこれを進めていくときに大きなネックがありまして、誰がそこに関わるかなんです。これは地域の方たち、保護者の方たちのご協力を得て設定しようということで、昼間3時から6時くらいまでの間、子どもたちに関わっていただける方が多い地域と少ない地域がある。地域によっては、保護者がみんな働きに出ていて、居場所づくりが欲しいなと思っている方がたくさんいながら、そこに入っただけの人がいないということで、そのへんの問題も、ただ居場所づくりが出来る、学校応援団がある、だからいいよということではなくて、そこのボランティアの形として関わっていただける方をどういう形で探さしていくか。学校という場を活用することは、いろいろなことが出来るので、とてもいいことだと思いますが、そこに関わっていく人たちをどうやってみんなで探していくか。学校応援団は教育委員会が中心になって取り組んでいますが、そこだけやるとなかなかうまくいかない。子育て支援全体のからみであったり、地域振興ということで考えたり、いろいろな取り組みをし

ながら、そういったものを定着していければいいなと思います。本校でもやっていきたいなという願いはきわめて強くあるのですが、手伝ってくれる人を探すのに一生懸命です。とても大事な事業だと思うので、ぜひ特定の部署だけでがんばるのではなく、みなさんで知恵を出し合いながらいい方法があれば、出来るところから順次広げていければいいと思います。けっして学童保育をつぶしてほしいという意味ではなくて、学童に行かない子どもたちも参加できる、そんな意味合いが強いような気がします。ぜひ、お知恵をお貸しいただければと思います。

委員

私は放課後の居場所づくりの新聞の記事を読んだ時に、画期的だ、よくやったなみたいな、早くこういうものができてくれるとありがたいと思っていました。学童クラブをつぶそうというお話がありましたがつぶれないと思います。それは各家庭や子どもが選べばいいと思います。学校から学童クラブまで20分も、自宅の前を通り過ぎて来なくちゃいけないという子どもが私のいる学童クラブには多いです。3校から集まってきています。そういう子たちが各学校に居場所があれば、自由に遊べるし、5時までいれば、家に帰るとお母さんがもう家にいる。利用する家庭がどこをどう利用するか選んでいけるものだと思うので、良いことだと思います。あと、お手伝いして下さる地域、そういうところに退職している方、おじいちゃんおばあちゃんを大勢とり入れてほしい。子どもを若い夫婦で育てるのも良いでしょうけど、お年寄りのいろいろな知恵というのはとても大切だと思います。私には3人の子どもがいて、皆成人していますが、おじいちゃん、おばあちゃんと一緒に生活していました。そのおかげで子どもたちは、古き良きものを今いっぱい知っています。子どもたちを甘やかす両親を煙たく思った時期もありましたが、今はとても感謝しています。地域のなかでも、そういうお年寄りの力をいっぱい借りていきたいと考えています。

委員

今お話をずっと伺っていて、本当にそのとおりだと思います。

私は保育所で働いていますので、子どもの気持ち、子どものことを一番に考えたい。子育て支援で周りから支える仕組みをたくさん考えて、それは大切なことですが、それと同時に働き方の見直しを進めていかなければいけないと思います。お母さんがなるべく早く帰ってきて、子どもと一緒に過ごす時間はとても大切です。お父さんもたまには一緒に遊んであげられる、家族一緒に食卓が囲める、そういう時間はとても大切だと思います。私はまずこれが基本であると思います。

企業も大きいところだと、行動計画を策定していますが、日本は中小企業、零細企業が多いですから、そちらの方が働く状況としては、厳しい事情があります。

その辺を私たちの協議会で意見として挙げていく。ここはこうしてほしいと一緒にやっていく必要があるのではないかと思います。たくさんの子育てを応援する仕組みづくりがあって、病後時保育なども、働く人にとっては大変必要であると思います。それはそうなのですが、その反面で自分が具合が悪いとき、一番くつろげて、休みたいところは家ではないでしょうか。誰に背中をさすってもらいたいかというと、やはり母親だと思います。仕組みづくりはとても大切で必要なことですが、それと平行して働き方の見直しも必要だと思うのです。また、先ほどから出ているように、お母さんに母性というものも取り戻していただきたいと思います。しかし、お母さんに母性を取り戻してもらうには、今のお母さんたちはあまりにも忙しすぎて疲れています。いろいろな問題が世の中にあり、対応しなければならない。また会社に行ったら残業もやらなければならない。ゆったりと子どもと関わる時がありません。これでは母性がなかなか発揮できない、気持ちに余裕がないのです。私の保育所は延長保育7時15分までですが、もっと遅い所では8時までや10時の所もあります。大人は週40時間勤務ですが、子どもは一日12時間13時間施設にいるわけです。もちろん施設では手厚く保育をしています、それでも親とは違いますし、1対1ではありません。子どもは多少のストレスはかかります。人間形成の基礎である基本的信頼感が作られる乳幼児期は特に母子のかかわりが大切です。私の保育所でも、その分愛情を注ごうと思って抱っこしたりおんぶしたりしていますが、人数が足りません。障害を持ったお子さんや、そこまでいなくてもちょっと違うと思うお子さんが増えてきています。父兄の方も精神的な問題を抱えていたりします。企業に働きかけをして働き方の見直しをしていただいたり、お母さんたちに啓蒙運動して、母性を刺激して、お母さんであることに目覚めていただくことが大切だと思います。また、ハード面をつくることは予算があれば出来るのですが、ソフト面が追いつかないという問題があると思います。他の区のことですが、児童館に行った時に、やっと座れるくらいの赤ちゃんを連れて行った方が、そこで一生懸命遊ばせてくださるのですが、4、5歳児に対する様な遊びの内容のものをやってくれたそうです。一生懸命やってくくださるので、文句は言えないのですが、もう少し子どもの月齢を勉強して対応してほしいという話を聞きました。急ぐあまり、中味がお粗末になったり、事故が起こったりするような状態になっては大変です。とくに今は求人難で人を集めるのも大変です。大変だということは、レベルも低くなるざるを得ない場合も多くあるのではないかと思います。研修も取り入れる等ソフト面の充実をしていただけたら更に良いものが提供できるのではないかと思います。

座 長

次世代育成支援では、バランスのとれた広いろいろな立場から考えていく必要

が強いかと思います。最近子どもの数が減ってきて、どうしても若い子育て世代の、とりわけ女性に対してけしからんのではないかということが多いのですが、我々同じ社会での一員として、年上の経験を積んだ人間として、若い子育て世代の女性、あるいは子育て年齢の女性をあまり責めるのではなくて、むしろやさしく温かく支え応援するという方に、基本的なスタンスとしてこの協議会はたっていかないといけないのではないかと思います。子育てをしていて、例えば夜10時まで子どもを保育園に預けられるとして、その時間まで親は働かなければいけないのだろうか。そんな時間まで働かせている企業は何なのか、というふうにならず問題をたてるのが本来の筋なのではないかという議論もあろうかと思います。以前、病後時保育に取り組んでらっしゃるお医者さんのところに、見学に行ったことがあります。誠に見事でした。安心して病気の子どもを預けることができるといった面では、取り組んでらっしゃるお医者さんの情熱に頭がさがる思いです。

いろいろな面でバランスをとって考えなくてはいけない面があり、子育てが下手になってしまったとあって、その後かえって若い女性を追い込んでしまうことになり、そういう方たちが子どもを生むのに対してひるむような気持ちを強くしてしまうかもしれません。温かく根本からはげましていけるような姿勢にしたいというも考えます。そういう面で考えると、やはり一つは仕事と暮らしのバランス。本来は労働行政というのは区役所がやるべきことではないのかもしれませんが、何らかの形で少しやわらかめのキャンペーンを組まないといけないと思います。我々どうしても、お母さんがと言いがちですが、その裏にあるのはお母さんが出来ないならなぜお父さんがやらないのかという問題もありますので、その辺をいろいろな角度からご議論いただきたいと思います。

委員

48ページの「子育て家庭を地域で支える仕組みづくり」、62ページ「児童館、地区区民館、厚生文化会館、学童クラブ事業等の充実」に関連して、意見を聞きながら感じたことも含めて4点発言させていただきます。

第1は学童クラブに関することについてです。先ほど、国の方から「放課後子ども教室推進事業」という名称で展開されるという、8月末にマスコミが報道していた話と、学校応援団と流れが違うという話がありました。学童クラブと「放課後子ども教室推進事業」とは性格付けが違う、法的な根拠が違うことをきちんと見る必要があるのではないかと。「行動計画」の49ページに「学童クラブを補完するため、平成16年度から放課後児童等の広場事業を進めています」という表現がありますが、学童クラブというのは児童福祉法6条の2の12というところに書かれていて、“共働きやひとり親家庭の子の学校教育の生活を守ることが、学童保育の役割”とあります。児童館は40条に書いてありまして、“児童に健全な遊びを与え、

その健康を増進し情操を豊かにすることを目的とする”と書いてあります。学校応援団については、「行動計画」の73ページに「学校・地域間の人材活用および学校施設の有効活用を図る」と書いてあります。つまりそれぞれ位置づけが違ってきます。学童クラブの場合、共働きやひとり親家庭の子どもは親が働いて家にいないという状況ですので、子どものことを受け止めて、一緒に生活をする大人の指導員がいて、毎日安心して子どもが生活できる場所が必要だということが出発点だと思います。行っても行かなくてもいい、いつ帰ってきてもいいよということであれば、一定の時間そこで過ごすことがないわけで、継続した毎日の生活の場にならない。そういうことになれば、親としては、子どもが今日どこにいるのか心配になります。低学年の場合、継続して、毎日一定の時間、自分たちだけで生活しなさいというのは無理な話です。したがって、すべての子どもを対象とした児童館とか、学校応援団とか、学習塾の組み合わせによる子どもの居場所づくりと学童クラブとは性格が違うわけです。そのことをしっかり見る必要があるということです。8月末にマスコミで「放課後子ども教室推進事業」について全国でやるという報道がありましたが、それは概算要求段階の話で文部科学省は予算をつけると言っていて、厚生労働省のほうは学童クラブ関連予算を今年以上に増やす要求を提出していると言っています。練馬区の学童クラブは、全国の中でも誇るべき充実した制度があります。また、学校に学校応援団をつくるような、そういった歴史もあるわけです。それぞれを発展させていくことが、大事なことだと思います。残念ながら、東京都内や、東京に隣接する自治体の一部では一体化して、学童クラブを解消したところもあります。そこではいろいろな事故が起きたり、学童だった子どもが更衣室でおやつを食べたり肩身の狭い思いをしているという実態があります。練馬区はこれまで培ってきた歴史を踏まえて、発展させていただきたいというのがひとつです。

第2は63ページ「学童クラブ等の運営をめざして、委託化」ということが書かれていることについてです。練馬区でいうと学童クラブの民間委託の第1号で募集をかけたとき、待機児はたくさんいるのに、応募者が1人しかいなかったと言っています。これはどういうことかという、民間委託に対して保護者の間に不安があるのではないかと。こういうところを見ていく必要があると思います。それから、委託された学童クラブが何か所かあるのですが、「区内の保護者だけど、施設の見学とか指導員の話聞くことができますか」と問い合わせたところ、公立の学童クラブでは「いつでもいいですよ」と言われます。ところが、この間民間委託されている学童クラブに問い合わせたら、すぐに「いいですよ」と言ってくれたのは1か所だけでした。「担当している課長に聞かないとなんともいえない」と言っていました。委託の話の前に、区民に公開していくこと、開かれた学童クラブにすることが大前提ではないかと思えます。前回の時、光が丘第八保育園で話を聞きたい、見学させてほしいと言ったら断られたとお話ししました。その後、課長さんが同席した

らいいという話になりました。しかし、どの園でも園長先生に単独で話を聞けるのに、どうしてできないのか。情報公開というのは、どんな民間企業でもやっている。区民の問い合わせにいつでも開かれた状態にしていく必要があるのではないかと。

第3は子育て家庭を地域で支える仕組みづくりについてです。48ページ「地域の子育て支援団体、地域住民、保健相談所、学校、保育園、幼稚園などと連携し、地域レベルでのネットワークづくり」ということが書かれています。ネットワークづくりということでも、例えば公立・私立の保育園ひとつとってみても、いろいろな子育てについての相談に応じていると伺っています。学校のレベルでも先生への相談を含めいろいろと相談に応じていると思います。保育園に行っても、「どういう食事がいいのか」とか、「どういうオムツがいいのか」という相談もあると伺っています。そういった意味で地域の連携というのはすでにできているし、それを発展させることが大切ではないかと。

地域のネットワークということで1つの事例を紹介しますと、「行動計画」の51ページに民間版ファミリーサポートセンター事業の具体例として、サークル「しゅもあ」のことが書かれています。私の子どもが行っている保育園の親も使っている人がいますが、保育園のすぐ近くに「子ども支援ぼれぼれ」があります。「ぼれぼれ」とは保育園の父母会とも連携しながら、父母会のニュースに案内を載せたりしています。ただこの団体の方に聞きますと、区からの補助金が5年で切れてしまうので、バザーなどで運営資金を集めていると伺います。子育て支援をきちんとやっている団体に対しては区から援助をすすめるとか、区報の紙面を開放するなどしてもいいのではないのでしょうか。そういう中で地域のネットワークが繋がり発展していくと思います。子育て中のお父さんやお母さんに対してきびしい意見を伺いましたが、私の体験から言いますと、保育園の場合でも、子どもが成長するだけではなくて、親も学んで成長します。親も学んで成長する場が小学校であり保育園であり、学童クラブだと思えます。そういう温かい視線で子育て中の親をみてほしいと思います。

それから、62ページにある地区区民館の利用についてです。今練馬では、地区区民館を利用して、保育園の父母会とか、PTAが人形劇をやろうとすると、3年くらい前から使用料を徴収するようになりました。子どもに関わる子育て支援の団体に対しては、以前のように無料で施設を開放する温かさがあってもいいのではないかと思います。

第4は、学童クラブの民間委託とあわせて保育園の民間委託の問題です。「地域のネットワークづくり」という視点からみてどうということが起きているかということ、民間委託された保育園を調べてみますと、あまりにも親の意見を無視して強引に委託をすすめたため、親が区に何を言ってもしょうがない、行政と力を合わせて作りだそうという気持ちになれない状態になっています。委託されたところの園長先生と話をしましたが、非常に保育理念を持っている先生でした。ところが保育課に

伺ったところ、区のほうが、親と業者と区の三者で運営委員会をつくりたいと言っても、親のほうがそういう気持ちにならないといえます。いろいろ不満や言いたいこと、お願いしたいことはたくさんあるのに、行政と話し合うエネルギーさえ奪われてしまっているのではないのでしょうか。こうした問題をよりつつこんで討議できるように、前回提案しましたが、今後のスケジュールの中で、民間委託の問題、就業の問題、子育て世代の意識調査を中心とした最低3つのワーキンググループをつくって議論を深めて、今後の方向性を出していく必要があるのではないかと思います。

座 長

時間が押してまいりました。あと10分ほどですので、どんどん発言を頂戴したいと思うのですがいかがでしょうか。

副 座 長

私は、専門が社会学で、多少気になるお話もありました。親の育てる力の低下について議論する場合の問題点というのは、前提が子どもの保育にあたるのが、イコール母親になっていることが問題であるということです。保護者は母親だけではないわけで、ひとり親である場合、母親の場合もあるし、父親の場合もある。そういうふうに考えると母or父です。and orというのが一番いいわけで、母親だけが責任を持つのではなくて、社会学でいうと申し訳ないんですが、性別役割分業といいます。男は仕事で女は家庭という固定的な考え方ということではなくて、次世代育成の場合には父親も子育てに参加しましょう、参加してくださいね、地域も支えましょうねという考え方です。三世代の場合に子育てにあたっていただく場合も、母親だけが保育にあたるではないという考え方です。いろいろな人、いろいろな考え方、いろいろな世代の価値観に接することの重要性ということを言っているのであって、座長もおっしゃっていましたが、そのへんの捕らえ方というのが、次世代育成委員の中で共通しているとうれしいと思います。

先ほど自由遊びということで、区内の空き地の確保というようなお話が出ましたが、冒険遊び場とかプレイパーク事業というのも、立野町や石神井や光が丘でやっています。どう支えていくのか、うまく学童クラブなどの事業とも連携していくといいなと思います。

座 長

いかがでしょうか。あと10分くらいなので3分くらいずつで、お二人ということをお願いします。

委員

時間のないところ恐縮なのですが、おじいちゃんの立場で言わせてもらいます。

私には孫が9人、ひ孫が2人おります。ひ孫は今、私立幼稚園の3歳児にいます。

私は、この協議会の委員としての選出母体は町会連合会です。町会連合会は、この協議会の中では一番子どもに遠い存在にあるのではないかと思います。はっきり申し上げて、町会自治会の毎日の活動行事は子ども向けに子どものことについての行事はありません。だいたい中年以上の人たちを対象とした活動が多いです。我々が子どもたちに何をしなさいというのではなくて、PTAや青少年委員会など地域の団体から、上手に町会自治会を使ってほしい。我々が小さい孫たちのために何をしようかと、そういう年代ですから、何か一つやってあげようとしても、何をしたいのか分からない。みなさんが町会自治会を上手にを使って、そしてこの活動に巻き込んでもらいたい。他の団体の方々に町会自治会をご理解いただくとともに、上手にを使ってほしい。こちらから何かしてあげるというのは、なかなか難しいことですが、こういったことについて、町会自治会で協力をしてくれということをお願いすれば、そこから話が持ち上がるので、出来ることは何でもしてあげたい。そのように考えております。あまりにも年代が違うものですから、そういうことをご理解していただきたいと思います。

座長

今の提言、大変良いと思いますので、ぜひ区の方でも何かの形でうまく実現できれば、検討していただければと思います。

委員

今民間委託の問題があったのですが、できればここを確認しておいていただきたいのですが、この保育園の委託についてはいろいろなご意見があったことは聞いています。その問題を解決しなければいけないのだらうと思います。私は公立の小学校に勤めていますが、けっして私立の小学校より上だとは思っていません。下だとも思っていません。一緒に関わっていく。保育園や幼稚園にも私立があり、民間で経営されているところもあるわけです。だから民間がいけないのではなくて、民間に委託したことによって良くなっていく場合もあるわけです。そのところを間違えてしまうと、民間委託はいけないんだという論議になってしまう。民間がいけないのではなくて、手続きの問題とか何かで課題があったとすれば、それは検討して改善をしていく。練馬区内にある、民間であろうが公立であろうが、同じように子どもたちのことを考えていくという人が集まっているのだらうと、そういう思いを持ってないと、公立と民間が対立することがいいことではないですよ。現実に私は、虐待防止の推進委員会でNPOの方とか私立幼稚園の方とお話させていただ

たんですが、学ばせていただくことが多かった部分があります。そういった意味で、そこのところをはっきりさせようではないか。ようするに民間が悪いというのではなくて、手続きの問題ならば、改善の余地として考えていく。ここでは、みんな民間、私立、公立であろうと、一緒に取り組んでいくんだということが基本にないとやっていけないのではないかと思います。

宣伝になりますが、11月16日に本校で研究発表会を行います。安全安心をどうやって守るかということで、これは小竹町会から絶大な支援をいただいて、町会とPTAと学校が一体となって、小竹の子どもは小竹で守るという、そういう思いを持って2年間進めてきたものです。町会の方もいっぱい来ていただくことになっていますので、何かの形でご都合がございましたら、お越しいただければありがたいなと思います。

委員

今の委員のお話は、私の発言を踏まえて言っていると思いますので、ひと言発言します。私の発言は、時間的な制約があるので、誤解されているのかなと思います。民間がいけないということを言っているわけではありません。保育園に子どもを預けている親の多くは民間人です。民間を否定しているわけではありません。練馬でも無認可保育所を含めて私立の保育園は、いろいろ先例をつくるなど実績もあります。いまある民間と公立保育園を委託するのは話が違います。時間をつくっていただければ理解してもらえenと思います。そういう意味でも分科会を作って議論していきたい。民間の役割を認める話と、公的責任を失う民間委託がいけないという話は性格が違います。今問題になっているのは、民間委託の問題です。民間委託に問題があるということで、今練馬だけでなく、各地で問題になり、マスコミでも議論になっているのです。その民間と民間委託の区別を理解して誤解のないようにしていただきたい。

座長

民間がいけないというニュアンスにきこえたかもしれない。私もちょっとそんな感じがしました。誤解のないようにしてください。

委員

先ほど私が病後時保育のことを申しあげたので、もしかしたら言い方が足りませんで、病後時保育の事業そのものを否定したと思われた方がいらっしゃるかもしれませんが、そういうことではなくて、子どもはどのような気持ちなのかということをもまずは理解してほしい。病後時保育事業は必要ですが、そこに親として預けないですむならば、子どもの気持ちを考えてやってほしいし、預けなくてもすむような施

策を会社のほうでやってほしいということです。

委員

練馬区医師会病後児保育センターがオープンして2か月くらいたっているのですが、報告を簡単にさせていただきます。10人預かれるところ1日平均3人くらいです。医師連絡表を持ってきていただくので、病院にかかってそこで許可がでてから、病後時保育センターのほうでお預りするということですが、お子さんがかなり具合悪い時はお家で見ますということで、お預けにならないことが多いです。今のところ、熱があっても元気だとか、移る病気だけど熱はないので預けたいという方が多いです。良かったと思うのは、保育園の園医もしているのですが、ひとり親の方のお子さんが2人いらして、ちょっと虐待が心配で保育園と一緒に見ているのですが、病気の時には私の医院にかかっています。お子さんが具合悪いと、お母さんが働けないのでイライラしてしまいます。そうすると子どものほうに影響がいつてしまう。最初立ち上げの時は、そういうお母さんなので、保育士とトラブルになるといけないので、病後時保育のことは紹介しなかったのですが、センターも落ち着いてきたので、病後時保育があることを紹介したら、とびあがって喜んでくれました。預けることによってお母さんの気持ちにゆとりがもてるし、家に帰ってからゆとりを持って子どもに接せられるので、虐待の意味からも少し役に立てるのかと感じました。

座長

では次回の日程について事務局お願いします。

計画調整担当課長

前回日程をおはかりさせていただいた時に、都合のつかない委員さんがいらっしゃるということで、もう一度日程を調整してみました。11月29日の水曜日はいかがでしょうか。ご都合の悪い方はいらっしゃいますか。会場の都合等もあるので、委員全員が参加できる日程は難しいと思います。今出られている委員の方の中で一番出席できる日にしたいと思います。

座長

29日都合の悪い方はいらっしゃいますか。

(数名の挙手あり)

計画調整担当課長

ご都合の悪い方もいらっしゃいますが、申し訳ありませんが、次回の協議会は1

1月29日の水曜日でお願いいたします。今回の課題ですが、本日、行動計画の施策の体系ということで、1番目の基本目標「子どもたちの育つ力と育てる力を応援します」というところを中心にご議論いただきました。次世代育成支援行動計画は、先ほど分類させていただいているように、他に健康の問題とか、食の問題とか、他の体系がございます。次回以降、他の体系についてもご議論いただきますが、事務局の方でご意見をお聞きして、所管に伝えると非常に間接的になるおそれがございますので、事務局の方では、委員の皆様方から行政側にご質問とかのやりとりが必要であれば、所管の職員を呼んでやりとりをさせていただくのが一番いいのかなと考えております。本日は、事務局とのやりとりが、そんなに多くなかったのですが、それを考えると所管課に来てもらうのもどうかと思うのですが、委員の皆様でお図りいただきたいと思います。

委員

教育委員会の方を呼んでもらいたいです。行政の方からも出ていただけるといいと思います。

計画調整担当課長

他にもこの人をというご希望があれば、おっしゃってください。

委員

保育課をお願いします。

座長

こういうことを聞きたいということで、質問事項を事務局の方にFAXさせていただいて、私と事務局で調整させていただくということでよろしいですか。

計画調整担当課長

先のスケジュールについてですが、第3回の協議会を11月29日ということで今お願いしたところですが、第4回目の協議会は来年の2月くらいと考えています。今ちょうど19年度の予算要求の時期でして、事務局のほうでは、中間のまとめということで、来年の6月、7月くらいに、20年度に向けた計画の改定ですとか、この協議会の中間の意見のまとめをいただき、それをぜひとも翌年度の予算に反映できるような方向で考えていきたいと思っています。このような流れの中で考えた時に、トピック的な部分で、例えば他の市区町村の状況などを視察、見学がかなうようであれば、そういうことも考えてみたいと思いました。ただ、問題がございまして、夜間という訳にはいかないのです、日中ということになると、お仕事の関係で

なかなか難しいということになるかと思います。土曜日とか、限られた中での参加ということになるので、無理がないかどうかご検討いただきたいと思います。

座 長

平成19年度に他の自治体の施設見学はどうかという事務局からの提案ですが、いかがでしょうか。

委 員

私は行きたいです。

委 員

今結論を出さなければいけませんか。

計画調整担当課長

次回でも構いません。

委 員

どんな場所が見学先としてあるかというのが出てきていて、どんなに忙しくても考えてみようかということになるのか。行く場所が明確じゃなくてあいまいになってしまうかのどちらかになってしまうと思います。できれば行きたいですが、候補をみなさんで考えていただいて、実際に候補があげられるのならあげていただいて検討して行くという形にしたほうが良いと思います。

座 長

それでは、FAXで見学について行ったらどうかという所や意見などを自由に事務局のほうに送っていただいて、次回またお図りしたいと思います。時間厳守ということですがなかなかうまくいきません。ではこれで第2回練馬区次世代育成支援推進協議会を終了します。お忙しいところありがとうございました。